

傾城買二筋道全

へ13
2947
25



冊 25
入 13
2947
25

孝行

師尊

序余

師尊

孝行^{かぎ}を^し實^{じつ}を^し不^ふを^し受^う出^{しゅ}せ^んん^んハ。

實^{じつ}み^み川^{せん}柳^{りゅう}と^と其^{その}妙^{みょう}な^なあり^り都^と虚^{きょ}と^と實^{じつ}と^と其^{その}

中^{ちゆう}街^{がい}通^{つう}と^と心^{しん}通^{つう}に^に汲^く須^すと^と意^い氣^き路^ろと

磨^まく^く心^{しん}の^の駒^{こま}下^げ汰^たり^りや^やな^な風^{ふう}と^と其^{その}跡^{あと}出^いせ

禱^うの外^{の外}八^{はち}丈^{じやう}字^じ如^{ごと}く^くも^も有^あり^り又^{また}昭^{しょう}々^々と^とハ

茶屋が軒端の燈の其燭は
流るの身。辛氣辛苦の苦果す
たと一文が鉄袴と買ふも。豈
千金の尊と移ん。てきんも管
のちみんと。口を糴油の音り色り
軒の。函の廊は裏茶構のり。

客序

△

娼婆とゆめぬ心と捺。酔と
味ふ梅暮里谷我子。嗚呼其
才女高ぶと。山道屍乃火見椿
と足下り。憐く。筆頭の走る。復
南一の罨駕と。あつせん。不俵。付書の
伴頭新造と。らる。惣菜。此の

喰く。屈の如く。序文と作。謹
て。い。く。一寸。ママ。お。ん。あ。ん。と
志。つ。り。い。ふ。

于時寛政戊午春視初衣裳日

於囉囉樓上京はめ息子



客序二

傾城買二筋道序

智者尔毛。一質の禮は。愚者乃
一德あり。加賀詣の弱も。薩摩
布の強も。さ。る。あ。ん。の。棚。丸。毛
脊負。り。利。あ。は。を。捨。ご。く

通子の云。遊治郎乃班功は。
 醜か丈夫ちとこ温うら柔た尔る。猶なほ及およぶ。
 けいしとさき。宜よろから。人々只
 ぶ農たやわしきこや。さけ
 れと。傍たもとのくそ書かく田こ古こ平へい

序

志の里

午乃の里

梅暮里谷峨述





雪華一画



序二

目録

○ 夏れ床

○ 冬れ床

こゝろ敷ふ

往ふ記後れ 谷家

晝々申

序三

傾城買二筋道

谷巖作

○ 夏れ床

世界ハ小見勢客ハ二千五六のきんなる乃ハ
さいろ男にて胸どころあきほと已胸の未至通
を地中り同前通方ハ二十ニたいていれん

く〜〜をあら〜〜をま〜〜をさ〜〜をな〜〜を
五會め

水洞子合 夜半の短ちよけれどもおらあ
こと休寐のぬ〜よ口でいら〜とあんあつの中と

満ちたりまの垣根うさねまゝふく〜いもの蚊かる声
 とよりどとよりてうや蚊の蚊と焼やきりやうれうと
 氣き同ど〜とりじ〜らあは夏あつの底そこ川かわ仕し也や 須す衣い
 のほもぬ〜の声ハ〜五郎声こゑ斗たぬめ
 つとさみやいとを免まてくらまやひろ廣ひろ小こ路ちの十ぢう
 哲てつの〜らぞハかん漱せんとよあめのぞハナなんのこら
 こハナいやぬで〜らだといやぬよ ハナ
 マむ〜いまぬい百ひゃく〜いこ〜いこ声

ぐねられまぬんハナ〜のハナ〜
 こめ声こゑで〜き〜れてハナ百ひゃくも〜らハナ果は〜
 ころやぬ〜の〜あは入い〜ておハナぞハナな
 人ひとすものどだれでもき〜ぬハナものハナおハナりハナせんハナのハナ
 おハナ〜ぬ〜も〜こ〜中なが〜ら〜
 何なにい〜の〜は〜い〜い〜
 ぞ〜んす〜ら〜と〜あ〜ら〜
 一ひと〜ん〜あ〜は〜ま〜は〜氣きと〜も〜せ〜ら〜ら〜ら〜ぬ〜

うんちあーとらあんまじららちのどいらどが
あげくごそのうらうらあかひおとあは家の小下
りる鯉節をかでもくくねハねら^テ猫
ドヤアアアアアアアアアアアアアアアア
いずあそーてあんのかさん^アあんので
ねとしまくら^ハあはあはあはあはあはあはあは
^アあああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ

かとおのりて^アああああああああああああ
くつご^アああああああああああああああ
のとああああああああああああああああ
ねい十二で賣れて^あああああああああああ
て^あああああああああああああああああ
四年^あああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ
ああああああああああああああああああ

と氣のこゝろをいんからからりださぬは
 やアまのい所をいれぬまのちとむ
 いてとせや^アのちやアのや^ア瘦地^{ヤセチ}して
 後うすく枕たのりのさ知まてよくかんで
 北二でぬふ足^{タビ}おてまよあまのさか
 うがおろくよめい^アむむらひ車^{クルマ}らりり
 あんすあんとぬ^ア涼川^{スズガハ}より
 ばに涼川^{スズガハ}よりぬりて^ア人^{ヒト}がらるゝかえ

すのく^アい^イま^マい^イと^トみ^ミみ^ミよ^ヨア^アあ^アめ^メを
 ばり^アら^ラぬ^ヌよ^ヨと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 む^ムど^ドん^ンが^ガあ^アれ^レる^ルま^マい^イな^ナん^ンと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 ち^チれ^レつ^ツて^テい^イま^マの^ノい^イと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 の^ノい^イと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 い^イま^マの^ノい^イと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 ん^ン—^ニい^イま^マの^ノい^イと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ
 が^ガ名^ナを^ヲい^イま^マの^ノい^イと^トあ^アり^リあ^ア客^{キヤク}人^{ニン}は^ハも^モい^イは^ハら^ラ

らんせめん一[廿]それとおむらに申居て
 したと一[廿]きういせん[廿]こあましくお
 ぐふんやうそ[廿]おやばいさういしんちや
 高麗かうらいやてむらぶよだうりさせいさうこれ
 ちかのいもたきんぎうしよひやや[廿]アをその
 じヤアニちん一とぢんまはまらみまかいまんぢ
でやまおこしんこらき
 じいやアちんじいんちん會之寺の過去帳こくごいも一
 じとんで一[廿]三年のこいちもこめちか[廿]いもが

三十四

一[廿]なせ[廿]をそくしん後何かうちい
 ばららものりてりましがうらめとあり[廿]は
 こやんせりあすくひあわたりぢいあぢが
 ちうやうぬ一のりたれあてぢあま一
 すのいんがくしんしよあてぢいあま
 ちやまぢいしんしよあてぢいあま一のあま
 ちやまぢいしんしよあてぢいあま一
 ちやまぢいしんしよあてぢいあま一
 ちやまぢいしんしよあてぢいあま一

まゝのまのんいもすのうらなうらなうらなうらな
れむせんぬまのつくぶせうちう何れも
ふよ茶碗とまのておつけていよふく
としていふはわいおまもいおねお
手前のよちうとおいおまはちうのハ地切で
まゝぬけりやあゝ神をねもわいませ
まのハ借物あゝわいぬんまのよまお真
分ぞかりしとおいそらあゝねさうてい

あゝとぬけり十四お入あゝぬいよくさうづ
く五ていふおわいおまもぬいよ
ういおわいおまもぬいよわい
おまもぬいよわいおまもぬいよ
おまもぬいよわいおまもぬいよ
おまもぬいよわいおまもぬいよ
おまもぬいよわいおまもぬいよ
おまもぬいよわいおまもぬいよ
おまもぬいよわいおまもぬいよ

とくかきものごとく人形芝居の太刀打と云る
 よきよおさせの袖く火さかきよりいでりあより
 すまのりぬりしう都合ごなんほ水太のよ
 といふ事なむやうといひつくりあめあめ
 ちやくとんまのめ地がすいていんぞえをねで耳
 のしむいづこころのと智恵のねく所とと
 ついよぬき町川谷へあるといふ錢りりり
 だ四ナりりちりり錢りあけとおへておらん

あし〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い
 のしむいづこころのと智恵のねく所とと
 ついよぬき町川谷へあるといふ錢りりり
 だ四ナりりちりり錢りあけとおへておらん

かえんけいよふらぬくりまらさしきぬい
かげんよあまんとしうようすあすぬすぬ
かぬさんちちくでいあしうかけんよあや
よと隣りていふすぬまやよよそれでもおちり
かしうたうしがぬりやく大ちやさく
[唐] ちんていすういんぎめしうぬよあち
のちやさくのとねがこんが米こちい穂とちらういあめし
ちんが玉座のせりぬと小車にひらんとす

うぬいよりいかにしれくちらひめう
くちりしうあちくのちやさくのと
唐 蜀 茶
とふちちこしうあちうさりよいよとうら買と
しうちあびんちういあやあやねよ
やなちあぜんてんちうとあちうあよ
勝うのちされ後よア甲のあぬあ
やうとと取組ふとあちうばせん千のあ観音へ
ちらさしてちらうと二年もい三谷の

毘沙門ひしゃもんつら百足ひゃくそくと後見こうけんまたのんどもま
 おきのくるおきのくるにすれどかきさう組くみめくさ
 トヤアねくへトヤアにさむらひまほとくやとつかめ
 まぶまぶまぶまぶ出世しゅっせのオボよめまもおぼおぼおぼおぼおぼ
 ぶねぶねなれ出い世も親おやがつよひ火ひは売うのて
 んびんんびんは夢ゆめ売うの杖つえで地獄じごくへく〜みさ
 こゝろこゝろをひらきつゞてまゆまゆまゆまゆのさぶら
 ままおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼ
 十十

おくおくのここをひらきつゞてまゆまゆまゆまゆのさぶら
 ままおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼおぼ
 まさまさ代しろく一向いっかうな仕し切きの者ものはまままままままままままままままま
 ちくちくへんへんななんんどどはは女にささららくく志しおおののせ
 よよももややたたへへ物もの恋こひ菜なののゆゆめめよよ百ひゃくがが柄へい漬づけとと食く
 つつ〜〜五ご町ちやうまちち中ちゆうへへ黒くろ飛とびのの糞くそををたたれれてももえ
 ここめめるるひひががなるなるももののううへへ盲めくら蛇へびとといいふふははるるままごご五
 郎ご海かいぢぢののままへへででははちちつつととかか〜〜けけををららひひの
 ととおおききささららくく〜〜でで〜〜ややねねるるががおおれれとと〜〜物ものがが

アヤアヤとどきのふはかりお世の中さふあつ
くうめあなはとがけもの相根の成園^{いん}てふ
さぬらうとさ^{すぬ}ヤアアアとのあはれ^{あはれ}せんお
ま^まちん—^{あはれ}なちよめがてい^{あはれ}せん
そ^ま味^{あはれ}が^{あはれ}ごせん^{あはれ}すよ^{あはれ}らん^{あはれ}おやく^{あはれ}乃
遊^{あはれ}馬^{あはれ}のお傳^{あはれ}馬^{あはれ}の^{あはれ}ら^{あはれ}め^{あはれ}—
そ^{あはれ}あ^{あはれ}つ^{あはれ}—^{あはれ}さ^{あはれ}ら^{あはれ}は^{あはれ}ね^{あはれ}だ^{あはれ}ち^{あはれ}ま^{あはれ}ら^{あはれ}の
う^{あはれ}ら^{あはれ}や^{あはれ}氣^{あはれ}づ^{あはれ}—^{あはれ}や^{あはれ}あ^{あはれ}ひ^{あはれ}の^{あはれ}ら^{あはれ}ち^{あはれ}

ま^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
く^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
—^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
ま^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
め^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
ま^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
ま^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}
ま^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}の^{あはれ}あ^{あはれ}ら^{あはれ}

こと泣いてふくれどやせろ泪がてせんはれるふ
俊までもめて泣くよまを

平丸又出帆は跡念もまごせんごんごさ
想とせんごんごん毎夜素見のよまなれ
バ今ハむあしくそらくと寐入一がぬの目
雪白壁玉落八月のゆらると夜のゆらとあ
ゆらゆらとゆらゆら若い若い者とおうし
けさ也長へつるると大いんんん

○冬代床

世界の大見舞客ハ三十二甚ふ男客中ハ
ゆる都のぬも方よりさうして如えぬ通人あり
遊方ハ中ニてハ十七八ころ風俗小町もあ
ちのけろそ一体發明ろ張強情ゆさなぬも
まごころもろのおおこぬもそけををぬあふい
らんごころもろお隣をぬもそなをぬあふい
合雪の夜中のほろそてまごそハ隣てぬい

いこのまつてあらんらん
文里 ころるや
成給十七八の時分
てんでおぬくる
織オリて丸くしていれハ
けふもさうが
あつた

さういけはさうな
かへはめり
かきとこのおハ
つた
さうい
さうい

障子めらう
中三一重が
て見ておや
り廊下とさう
謀マカ蝶マカをよび

九重
あつた
九重
あつた

けりぞちがぬいゝまを **五**のうんまんちん一さ
 文里さんのせとごんじまうとさぐ久しぬりて
 めげいさ **文**まがむせよせう **六**のそんあ
 九重さんあゆいあぬのこりあ一いす **九**重い
 たいさくねさんを機脚のりよりなりんどの **七**は
とこむすれんせんかん
ついでとめとる 一ッつぎを **文**おめんが
 ぞふゆあんなごころあすくみへますて
 あしてられぬうらんを **八**のすまを

ちのよかていけいそが **ア**ノ忠七いあ
 りいそむま **九**のそくわ **ア**の
 ていすね 向七あ茶を男忠七いらく
だんせうい **忠七**ゆあま
 おまうらむでいんあせいあく **客**んがあら
 めい **文**ま **文**里 **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま
 い **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま
 り **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま
 い **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま **文**ま

けいせく^の文里^をしめざり^の志^をす^るものと^{なり}け
[文]とさうまがま^いか^いま^うの^あい^せと^ど [吉]節^をうち
や^いや^いむ^じだ^いけ^ぬ [文]里^のめ^のく^いあ^く
ゆ^もれ^い志^ぬが^くん^やい^さけ^の白^ひと^かぐ^も
ソ^やぶ^らい^らの^そん^ない^しも^ぬめ^のめ^いけ^ぬ
り^何ぞ^んす^ぬ [文]里^かぐ^らい^らい^らく^あれ
よ^かめ^のぶ^いだ^いく^くい^あす^のそ^らや^らく^く
ぞ^んす^ぬめ^のい^まく^そん^ごめ^いあ^んー^ぬ [文]里

い^まは^いら^はひ^のあ^まま^の [九]重^をれ^でも^かん^ぞん^のい^にた^る [文]里^を
あ^らい^で海^まと^あの^め [九]重^をめ^いら^れた
ね^今夜^のい^まの^まい^らい^もて^いど^いつ
か^いあ^い出^せれ^られ^るま^であ^らい^す氣^を [文]里^はあ
そ^うま^られ^いか^いつ^くみ^ま二^三部^をや^あぬ^く
[九]重^うそ^いま^いら^い [文]里^そん^ない^らた^べて^られ^ぬ
け^りや^あ氣^がす^ぬぬ^く [九]重^文里^まん^もあ^い [文]里
ま^いち^まか^まい^らく [九]重^あら^いぬ^のあ

初段

扱^まげ二階中^にに^とおぼしめしむる時^はころやす
は^られ^ばく^もめ^れば^くり^ぬる^もり^子越^はよ^き
き^うけ^るめ^れば^めち^りと^あす^有
み^もち^くか^らう^もあ^く傾^城も^かく^や兵^の女
み^そめ^のり^うく^めれ^きも^も繁^く
ら^さぬ^はめ^しし^ごこ^んの^お
こ^ハた^いぐ^ひは^と略^さり^よ四^五人^持て
文^里さん^ハけ^をた^へち^んさん^ハ文^里さん^ハも^も
初段

九重 花^{はな}ま^はら^ば
九重 花^{はな}が^散り^まま^はり^よは^ら
の^こん^こん^を文^里さん^ハ何^として^るか
ち^のだ^のこ^ん**九重**
お^のか^かけ^らし^し花^{はな}が^散り^まま^はり^よは^ら
何^のこ^のん^こん^を文^里さん^ハ何^として^るか
ち^のだ^のこ^ん**九重**
お^のか^かけ^らし^し花^{はな}が^散り^まま^はり^よは^ら
何^のこ^のん^こん^を文^里さん^ハ何^として^るか
ち^のだ^のこ^ん**九重**
お^のか^かけ^らし^し花^{はな}が^散り^まま^はり^よは^ら

てくろがめらあすすらしめしれちやう
らみさる九重ちんのりたか氣まかりしす
初何まんすま申おきをちん一文里ヤイ
おめかいちんいちんいちんいちんいちんい
ソもあればこらあおへくあらうらう
ほいぞまのし敵とみさいのちもねまらう
そしよころべんくいちんいちんいちんいちんい
知恵が
ねとおめらうらめいいちんいちんいちんいちんい

おれぞしねよあめいいちんいちんいちんいちんい
くれさういちんいちんいちんいちんいちんい
がうねいちんいちんいちんいちんいちんい
れらいちんいちんいちんいちんいちんい
くのちいちんいちんいちんいちんいちんい
よあねいちんいちんいちんいちんいちんい
があつてハいちんいちんいちんいちんいちんい
やくすかおのひすいちんいちんいちんいちんいちんい

ねらうこころ今人教ヤはま新あそふちあ朝すはまあそふち
 ありがけふあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 りあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 かなあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 れふあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 てあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 おれがんあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 九重さんハ格別うけわのあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち

ちく苦界くのうううけとらつてれのあるよ
 かなあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 たりあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 のいあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
あそふちあそふちあそふち
 ちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 てあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち
 のあそふちあそふちあそふちあそふちあそふちあそふち

めろふとおのひちんすう女郎めくつがつさ
いすあへちんよちりいと公界くわいと儀理ぎりをお志
りちんーいふのやーいすもおのひすか
でだんす下元そのよめはおめへさんごさ
さくーとおのりくつておんちんすとおも
へんろくくおすちんよ文里さんハ久
くおいでちんす肉もいゆーいふもあ
つとめんよくもおすせんー物前ものまへの苦く言ことかよ

せぬも何やめぬのせ話はなもんだとおのひすか
ぢやうそのよめは你切よさぬるあどおろわ
でちんーせんーはいつらーいすうい
つでもさざんくおんうあんすゆんゆいて
ハまのじくはあういーてこんどまぢん
ん時ハよく志いせうとおのりても歌とんい
すとさうくういぢいぢいせんあかか
いんいぢいーとちうておすせうかんせん

のあやうりつらねとぞらよは亂も乱れ
ふりてらりしとひとえがんで日何し
まうりよはほぬをばたさく家あけ舟の
りよあまもこも三舟ばかりいほ前後も
こり舟あけむ文里はよあくれを
こりちちあー

文里 ともふんあが名跡と惜んでくれあひ
ふれふさしげぬがしれぢやうぢやう

と千世三

ちれぬへらうとぞ知ひ船とんせく
くんやまのうらまゝあんよさあてうらうのね
へらうりれらうねおのひのさあてさあ
くくちあて

側はうらあ茶碗をそよ破のひら酒
三つんちんりては後のいほづみゆん
すさぞ下えはあゆめぬぢやうぢやう
とらつきはあせ文里はぬうとらあま

ほくま

文里 みるげののりまうらねいごれあ
こころのけのよまもめもめろのた
おれよふまんよつやとおりの
おののよまうらねいごれあ
らめと欲と志んおせまうらねい
ねんがまうらねいごれあ
の多るれば社若界こつふまの
こころ

志んあうらねいごれあ
まうらねいごれあ
むかんあうらねいごれあ

たちゆれバ下えハ何とせん
しておらんあうらねいごれあ
へうはとあうらねいごれあ

初瀬路

これ文里さんやうらねいごれあ
ゆの子の胸もさうおらんあうらねいごれあ

文里

てくれといひしむるにやういふのよき事な
おのりしむるにやういふのよき事な
初決め サウ すんぎんじしにありせん
うへえんもあひのよき事な 文里 あり
やア三年もにやういふのよき事な
ゆいしむるにやういふのよき事な 文里 あり
しむるにやういふのよき事な 文里 あり
おめいしむるにやういふのよき事な
くられも志免い 文里 あり

しむるにやういふのよき事な 文里 あり
ちんすしむるにやういふのよき事な
り 文里 あり
よめく一彦もあひのよき事な
おめいしむるにやういふのよき事な
ゆいしむるにやういふのよき事な
しむるにやういふのよき事な
捨 サウ ぐくせ 文里 あり

度なぞと立出る文里かうと悪ぬを捨て
帯々くと川ちめてらぬをこらぬし
居る西へ間もななくもさうく下えが足音
こらさうかうしへむきうてら寝る松
子よめてやせをこ下えハ眼から泣く
一泪とあきしみ守紙とよよめし
ひねりても何うあきさいのたうりばは死毒
そらよ床よ入ぬしハんおちりけけどま

氣ようらう文里ハ胸何ううてゆやま
らんこのそいてんさう考へさう物々初念
の如くよそいさんと下れどくもておそ
ひくして何うのり松子本の扱かすれ
いよやせのゆけちかりればおのひき
ゆてしうくくんとさうあつてあ
今宵よなねがうりての寝でしあてか
つぬりておのひきさうをいさもせられ

よ包てあげん

下え
こいままぞのふらんめんーてーいーざ
てーいーてちらんちんーと

いれくる血志のゆとぬまてあまざえん
とてやぐーと齒とくーいーあこー入てえん
てもぬぐーい志ん志のあてーいーりし
た文里いりてちげあーお面とく入て
文
いぬぬまこえんまめと急ばすーてく

ゆるもあまそがはちぬいこれ今と公事なが
ちぬぬいぬぬぬ欲のぬくまざと物も
かーいーとくーとれまよとていーいーがら
てあまのてーいーあつがーい位おとされてハ
りあらんちぬいよとていーいぬぬ物と
い苦界とよまよの錦の夜とよあつまる
もい一校のよとていーいぬぬのすさ
ていぬぬのいぬぬぬぬぬ親ぬぬぬの

むくやう小聲こゑよそ

文里

けも麻あしもぢくもちやまふらん

一トえは今いまはこれぞとぞんぞんのうみぞり

どういざすぞにゆわうくはくもよ

文里ハ海うみもくことむれどもをぢしてこ

ろしてととまぼゆもあそのち

よよは判はんらうゆげ口くちへよとめて**文里**われ

卅

ちわまるあ何なにや死しぬとつあ入い聞きてう

らめーげよ都みやこうらまもとら **一トえ**何なに也

といさくといせんぞあてうさぐらわれハ

せす未いま来こでつ欲ほ志しすううう海うみぞり

をるしてころしてと故ゆゑ友ともも乱みだれれも

乱みだし文里ハももゆづんちう

文里

いなくまゆく都みやこぞりゆまよ **一トえ**

されて喜原へ年入ぬとも。實の
通意と高雄の金言雨波は
て地意のするのそ。此業の定る
事を知は。何ぞ心の雪解よ。流
ひ懸しあらん

大尾

